



## KEM第16回学術大会及び総会が開催されました

2017年2月19日（日）に東京・秋葉原コンベンションホール2Fにて

大会長：北村和夫（日本歯科大学）

実行委員長：山崎孝子（日本歯科大学）

テーマ：『歯を保存するために』

基調講演に 平井 順 先生（神奈川県開業・明海大学歯学部臨床教授）

受賞講演に 金丸順策 先生（東京都開業）

シンポジウム講演に 寺内吉継 先生（神奈川県開業・東京医科歯科大学非常勤講師）

Jun Sang Yoo 先生（韓国ソウル大学教授）

一般口演7名の演題がありました。

吉岡隆知先生「複数の陥入歯を有する症例」

壹岐亜衣先生「根管治療時におけるテンポラリークラウンの有用性について」

藤井万弘先生「歯を残すための私の臨床」

天川由美子先生「ファイバーポスト併用レジン支台築造を再考する」

長尾大輔先生「複雑な問題を抱えた歯に対する再根管治療-歯科用マイクロスコープを用いた新たなアプローチ-」

山内真人 先生「髓床底穿孔に対して水酸化カルシウムの使用が有効であった1症例

明石俊和 先生「エンド用超音波チップによる破折ファイルの除去法」

参加者：241名（有料212名、無料29名）

## 第16回学術大会に参加して

東京開業 藤井万弘

今回は会場ががらりと変わり、秋葉原コンベンションホールで開催されました。会場も広く、スクリーンも大きく、素晴らしい会場でした。

前回までは下顎の症例のX-Rayが出ると、肝心な根尖部（一番見たい部分が）前列の先生の頭で全く見えなく、頭と頭の間から背伸びをしながら見なければ、見えな

い最悪の状態でした。その意味で今回はパーフェクトな会場でした。

私自身は昨年のテーブルクリニックで嬉しい事に皆様の投票で会長賞を受賞し、学会終了直後のニュースレターに大会長の北村先生から「金丸先生、藤井先生、お忙しいと思いますが来年受賞講演を宜しく願います」と言う講演依頼を頂きました。25分×2回で行ったテーブルクリニックに対し、過去の受賞講演は20分間であったため、スライド枚数を少し減らせばほぼ同

じ内容で発表ができると思い、新しい症例も追加し楽しみにしていました。しかし、演題募集が始まってもし記念講演について私の所に正式な依頼連絡がないため不思議に思い問い合わせビックリ！！私の記念講演はなぜか中止になったとのことでした。今回はテーブルクリニックも無く、私の発表の場(幻の記念講演)は一般講演に取って代わりました。多数のケースを発表する私にとっては時間がかかり足りないのは始めから承知していたので症例数を極力絞り望んだ一般講演でしたが、案の定時間が足りず私としては大失敗に終わってしまったと大きな課題が残ってしまった発表でした。

《救いの言葉 ～小林千尋先生より～》  
表彰式、懇親会も終了し3次会に突入したときは、私と医院のスタッフ3人と小林千尋先生の5人でした。その時に「時間が足りず、失敗でした。」と私がつぶやくと、小林先生が「いや～！先生の言いたいことはみんなに十分伝わってると思いますよ！」と優しい言葉をかけて貰いました。感謝！！

関東歯内療法学会学術大会に参加して

神奈川県開業 山口明平

平成29年2月19日に秋葉原コンベンションホールにて開催された第16回学術大会に参加した。近年参加者が増え従来の会場では手狭と予想されての新たな会場での開催となったが、秋葉原駅目の前と立地が良く参加者も200名を越えての盛況な大会だった。

「歯を保存するために」というテーマで基調講演1題、鈴木賢策賞受賞講演1題、一般口演7題、シンポジウム講演2題の講演及び発表があった。診断におけるCBCTの有用性を示した吉岡隆知先生、コロナル

リーケースに対するテンポラリークラウンの有用性を示した壹岐亜衣先生、保存困難と思われる歯牙に対する歯内療法チャレンジを臨床報告された藤井万弘先生、複雑な問題を抱えた歯内療法のアプローチを報告された長尾大輔先生は歯内療法臨床のヒントを、また、髓床底穿孔に対するアプローチを臨床報告された山内真人先生と破折ファイルの除去法を検討報告された明石俊和先生はトラブルに対するテクニックを、更にシンポジウムでは韓国ソウル大学Jun Sang Yoo教授と寺内吉継先生が、近年注目をされているMTAを用いた臨床の最新の知見を講演されて、歯内療法で多方向から歯を保存するための多くのヒントを得ることが出来た。

しかし今回特に思った事は、発刊された最新版の日本歯内療法学会誌表紙にも咬頭干涉の口腔内写真が使われていたように、歯を保存するために歯内療法の分野だけでなく咬合を意識して歯内療法を行う大切さを感じた。平井順先生、天川由美子先生、金丸順策先生の講演が歯内療法前の診査・診断や歯内療法後の補綴処置を含めて歯を保存するための重要なポイントについて講演された事は非常に参考になった。ご開業されている臨床家ならではの視点であるとも言える。私もより広い目で歯内療法を捉え、歯を可及的に保存して機能出来るようにしていきたいと思う。大変有意義な一日を過ごす事が出来て、北村和夫大会長を始めとする学会関係者に感謝申し上げる。

最後に私の大学の後輩でもある長尾大輔先生が、私の勉強仲間でもある金丸順策先生に続いて栄誉ある鈴木賢策賞を受賞した事にお祝いを申し上げると共に、次回の受賞講演も楽しみにしたいと思う。

第16回学術大会アンケート集計  
参加人数 241名 (有料212名

(当日25名) 無料29名) 回収枚数61枚

### Q今回の学術大会に参加されていたか？

- ・先生方の、さまざまな歯を保存するための努力やテクニックを学ぶことができた。
- ・多くのトピックスをカバーして興味深いテーマが多かった。
- ・内容が豊富で、咬合への言及も多く臨床的。
- ・MTAについてよく知ることができた。
- ・主に臨床的な発表が多く、日常臨床に直結していると感じた。
- ・MTAについての最新の考察が分かって、とても勉強になりました。

### Q今回の講演の内容は、今後の診療に役に立ちますか？

- ・実際の臨床に結びつきやすい内容で良かったと思う。
- ・日常臨床で陥入歯に出会う機会はそう多くないと思うが、もしもそのような症例に遭遇した場合に、どのように対応して良いか、知っているか知らないかでは大きな差があると感じたため。
- ・基本的な部分からテクニカルな部分での講演のどちらも聞いたので。
- ・時間の不足

### Q今回良く理解できた事は何でしたか

- ・MTAの症例別使い分け。エビデンス。
- ・MTAリペアとfillingの方法。
- ・MTAの詳細な特徴、臨床応用だけでなく欠点についても理解を深められた。
- ・平井先生、金丸先生の話。
- ・ラバーダムの重要性、歯冠破折のメカニズム。
- ・陥入歯に対する理解を少し広げられたこと。
- ・歯内療法後の咬合の重要性。
- ・歯髄保存と咬合の大切さ。

### Q今回あまり理解できなかった事は何でしたか。

- ・具体的なテクニックについて。
- ・多数根歯に対する、保険範囲内でのファイバーコアの挿入根管、本数について。
- ・ラバーしていないケースについて疑問。ソウル大学の先生呼ぶ必要はない。
- ・MTA充填後、湿綿球は置くべきか、置かない方が良いのか。

### Q今後、どのような講演をご希望ですか？

- ・バイオセラミック。
- ・Endo-Perio。
- ・歯内療法の限界。
- ・MTA及びCBCTに関わること。
- ・自費でエンドを行う際の具体的な方法、注意点等。

投票の結果、鈴木賢策賞に長尾 大輔 先生の「複雑な問題を抱えた歯に対する再根管治療」が、支部会長賞に吉岡 隆知 先生の「複数の陥入歯を有する症例」が選ばれました。

### 2017年度サマーセミナー・ハンズオンセミナーについて

日時：2017年8月31日（木）

場所：東京千代田区

秋葉原ダイビル2F

秋葉原コンベンションホール

講師：岡口守雄先生（東京都開業）、吉松宏泰先生（東京都開業）、須藤享先生(仙台市開業)

ベーシックセミナーは、国内で購入可能なMTA各社の比較ができる事を企画しております。

詳細決定次第webにて記載